# パスポート

月

シリーズ 4

黄色いハンカチ! 迅速な安否確認が 助かる命を救います!

今回1月17日 地区防災委員会が 各小学校区の避難所で さまざまな訓練を実施しました!

豊川南小校区では・・・

大地震!

の目印は

「うちは大丈夫」

コロナ禍を想定した「避難所開設訓練」を行い、避 難所入口と体育館内の2カ所に受付を設置して、最初 に発熱などの体調確認を行ってから、次の安否確認受 付に進んでもらうという流れを確認しました。また、避

難所が密にならない よう、感染防止のため のテント型間仕切り や、段ボール製のパー ティションの設置訓練 を行いました。



# 黄色いハンカチで家族の無事を知らせる

家にいる家族が全員無事だったら、黄色いハンカチ(大きく 目立つ黄色い布)を玄関先に掲げてください。黄色いハンカチ は、ご近所さんに「うちは大丈夫」と知らせる目印です。



黄色いハンカチを目印に安否確認を行う

「安否確認分担表」をもとに、安否確 認とりまとめ責任者などが、黄色いハン カチを目印に安否確認を行い、代表者 が結果を避難所へ報告に行きます。



#### 自治会から届く安否確認の報告を集める

各小学校区の地区防災 委員会の役員が、自治会 から届く安否確認の報 告を集めます。

防災訓練には必ず参加し、地域のかたと 協力しながら防災活動に取り組んでください!

大地震の後、家にいる家族が全員無事だったら、黄色いハンカチ(大きく目立つ黄色い布)を玄関先などに掲げてください。

黄色いハンカチがないと、1軒1軒「ピンポン」して安否確認をするので、とても時間がかかります。黄色いハンカチがあれば、

箕面市では、迅速な安否確認をするために、黄色いハンカチ作戦を進めています。

災害時、ご近所さんに「うちは大丈夫!」と知らせる目印です。

迅速な安否確認が可能になり、助かる命が救えます。

安否確認がスピードアップ

いちいち「ピンポン」しなくても

外から一目で無事と分かります!

色いハンカチ作戦

※避難所はお住まいの校区の小学校です (北小校区はメイプルホール、萱野北 小校区は第一中学校)。



#### 地区防災委員会とは

災害時に、地域の中心となって防災活動や避難所の運営を行う組織です。市内14の小学校 区ごとに設けられ、地区福祉会、青少年を守る会、自治会などのほか、各校区の住民によって運 営されています。委員会は、いくつかの班に分かれて作業を分担します。



- ●避難所を開設し、運営します
- ●自治会などから避難所へ届く安否情報を集約し、被害の状況を把握します

自治会で

各小学校区の避難所で

- ●市災害対策本部と連絡を取り合い、災害などの情報を交換します
- ●支援が必要な地域に行き、支援活動を行います
- ●一人暮らしの高齢者、体が不自由なかたなどの安否を確認します など



# 防災訓練への参加が 災害時の被害を最小限に抑えます!

ご参加いただきました!

チや声かけによる安否確認の訓練をしていただくことができました。

「今年の全市一斉総合防災訓練で

今後さらに、一人でも多くのかたが防災訓練に参加し、安否確認の訓練などを行うことが、 災害時の被害を最小限に抑えることにつながります。

1月17日(火曜日)、箕面市では11回目の全市一斉総合防災訓練を実施しました。今回

これは、これまでの防災訓練への参加や、地域での防災活動に取り組んでいただいたこ

と、さらに、平成30年の大阪北部地震や、立て続けに発生した大型台風などを受けて、み

なさんが高い防災意識を持ってくださった結果です。ご協力ありがとうございました。

は平日開催でしたが、240の自治会(全体の約7割)が参加し、多くのかたに黄色いハンカ

例えば、箕面市と防災協定を結んでいる静岡県富士宮市では、近い将来の発生が予想され る南海トラフ巨大地震に備え、ほぼ全ての自治会が年2回の防災訓練に参加し、黄色いハンカ チによる安否確認などを行っています。



#### | ご | その結果、富士宮市では

平成23年3月の 静岡県東部地震(震度6強)で 死者・重傷者ゼロでした!

平成23年3月15日の静岡県東部地震 (震度6強)では、新潟県中越沖地震(死 者15人・負傷者2346人)と同等規模の 大地震であったにも関わらず、黄色いハン カチ作戦による素早い安否確認などが功 を奏し、死者0人、負傷者は軽傷の33人 にとどまりました。

## また、阪神・淡路大震災では

阪神·淡路大震災 (平成7年1月)

### **【近いかた**が地域の絆で ○言』命を救われました

地震などの災害が発生したとき、公的な機関だ けで全ての命を救うことはできません。

阪神・淡路大震災では、消防や警察などに救助 されたかたは2割程度しかおらず、約8割のかたは、 自治会など地域のかたに救助されました。



阪神・淡路大震災で救助された人の救助要因

隣近所の素早い安否確認が、多くの命を救うことになります!